

今後の福島第一原子力発電所事故の 調査・分析の進め方について (活動計画書)

The logo for TEPCO (Tokyo Electric Power Company) is displayed in red, bold, uppercase letters. It is positioned in the lower right area of the slide, to the right of the main title. A horizontal red line is located below the title and above the date.

2021年3月29日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 活動のスコープ
2. 活動の進め方
3. 体制と役割
4. アウトプット
5. 2021年度計画

1. 活動の目的とスコープ

【目的】 事故事象の全容の解明（含む、未解明問題対応）、
今後のBWRの安全性向上に資する技術知見の獲得

【スコープ】 福島第一原子力発電所事故の調査・分析に関する
全ての検討を対象とする

① 事故前の設計・運用等からの更なる学び

- 「社内事故調報告書」(2012年6月20日公表)や、「原子力安全改革プラン」(2013年3月29日公表)において、事故に関する事実関係の整理、原因分析、教訓の抽出といった、一連の事故調査・分析が行われている。
- 徹底的に事故の教訓を引き出すという観点から、調査・分析を継続的に実施していく必要がある。

② 事故時の事象進展・対応等からの更なる学び

- 社内事故調報告書、原子力安全改革プランの他、継続的な事故調査の取り組みである「未解明問題検討」の進捗報告をこれまでに5回実施し、現在も継続中。
- 廃炉作業に進捗に伴い、事故調査に関係する現場データは継続的に発生する。特に格納容器内の廃炉作業が本格化すると、燃料デブリの状態など事故調査にとって重要な情報を入手できる機会が増えるため、引き続き調査・分析が必要である。

※本活動のメインスコープは②だが、①も活動対象に含め、事故の教訓を引き出していく。 2

2. 活動の進め方

- 事故調査に関する情報共有や対応方針の検討を行う場として、「福島第一原子力発電所事故の現場調査・分析に関する情報共有会議」を設置する。
 - 主査は原子力設備管理部長、副主査は廃炉推進Cバイスプレジデントとする。
 - 頻度は月1回程度。
 - 会議メンバーは「5.体制と役割」(次頁)のとおり。各回の内容に応じて適宜追加する。
 - 会議の内容は以下のとおり。
 - 福島第一廃炉推進Cは、至近に予定している現場作業の詳細内容を紹介。
 - 原子力・立地本部は、当該の現場作業に関して有用な現場情報の観点を伝達。
 - その他、事故調査に関係する課題を共有し、対応方針を検討。より具体的な対応検討や技術検討等を行う場を指定する、もしくはアドホックな場をアレンジ。
- 事故調査に関する情報共有を円滑化し、必要な現場情報の収集漏れを防ぐために、以下の資料を作成して定期的に更新する。（カッコ内は主な主管箇所）
 - 有用な現場情報の観点の整理資料（原子力・立地本部）
 - 事故調査に関係する可能性がある現場作業リスト（福島第一廃炉推進C）
 - 事故調査中長期計画（試料輸送・建屋内調査PJG）
- その他、個別の取り組みは情報共有会議の外に必要な事項を定めるが、活動全体に関わるものは本会議にて情報共有する。

3. 体制と役割

<原子力・立地本部>

| 関係者・部署 | | 期待する役割 |
|-----------|-----------|---|
| 原子力設備管理部 | 原子力設備管理部長 | 原子力・立地本部側の活動(事故調査・安全対策検討)の統括 |
| | 原子炉安全技術G | 事故進展や事象究明/安全性向上に有益な情報の整理、対策の検討、福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会(NRA)対応 |
| | 設備技術G | |
| | 安全調査G | 新潟県技術委員会対応 |
| 原子力安全・統括部 | 原子力調査G | 原子力・立地本部側の取り纏め、事故調査関連リストの進捗・改訂管理 |
| | 原子力安全G | 「重要なリスク情報入手時の対応」プロセスの事務局 |
| その他関連部署 | | 担当分の事故調査検討や安全対策検討の実施 |

<福島第一廃炉推進C>

連携

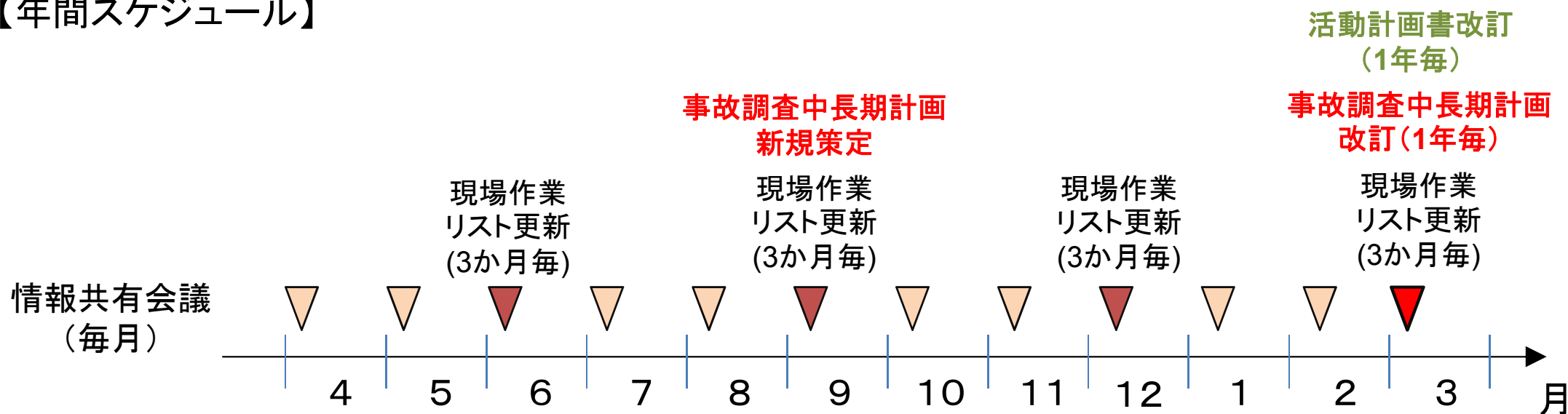
| 関係者・部署 | | 期待する役割 |
|---------------|-----------------|--|
| バイスプレジデント | | 福島第一廃炉推進C側の活動(現場情報の取得・提供)の統括 |
| 技監 | | 福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会(NRA)対応 |
| 廃炉安全・品質室 | | 未解明問題報告書の所掌、情報共有会議の事務局、現場サイドの調整 |
| 試料輸送・建屋内調査PJG | | 事故進展や事象究明/安全向上に有益な情報の整理、主要課題の継続調査、報告書取り纏め、学協会等の対応・発表 |
| プロジェクトマネジメント室 | | 福島第一廃炉推進C側の取り纏め、事故調査関連リストの進捗・改訂管理 |
| 1Fサイト | 汚染水対策プログラム部 | 福島第一原子力発電所事故の知見につながる現場情報の保存・取得 |
| | プール燃料取り出しプログラム部 | |
| | 燃料デブリ取り出しプログラム部 | |
| | 敷地全般管理・対応プログラム部 | |
| その他現場作業を行う部署 | | |

事故の調査・分析によって得られた知見は、以下のアウトプットを行い、社内外の原子力発電所の安全性向上他に役立てる。

- 【ハード面】 既設炉や今後の建設炉の安全対策や廃炉作業への反映
- 【ソフト面】 運転員や緊急時対応の訓練への反映
- 【情報共有】 公表、原子力規制庁への情報提供など
(公表の例)
 - 国内外への情報発信（学協会での発表等）
 - 福島第一原子力発電所事故における未確認・未解明事項の調査・検討の進捗報告
 - 原子力安全改革プランの進捗報告（プロGRESSレポート）

5. 2021年度計画

【年間スケジュール】

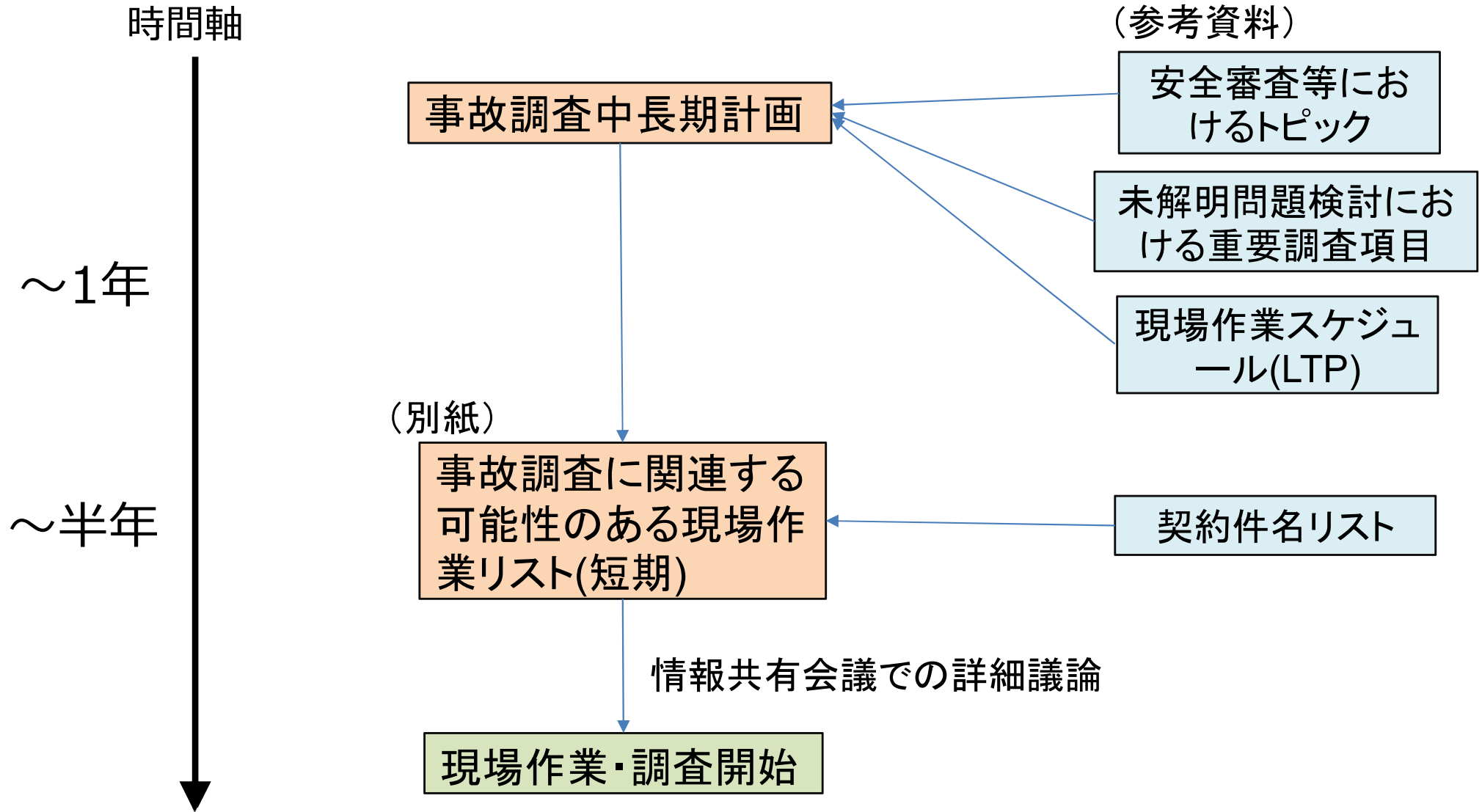


【2021年度における主な活動】

| 調査・分析事項 | 関連の現場作業 | 期間 |
|---------------------------------------|-----------------|-------------|
| 2号機原子炉ウェル内汚染の定量化 | 2号機オペフロ調査 | ～2021年7月 |
| 1号機の事故進展にRCW系統がもたらした影響の解明 | 1号機 RCW線量調査 | ～2021年12月 |
| 1号機ICの地震の影響評価、弁の最終位置の評価、水素輸送にかかる知見の収集 | 1号機大型カバー設置工事 | 2021年9月～11月 |
| 原子炉建屋爆発の形態の解明 | 3号機R/B南側ガレキ撤去 | ～2021年10月 |
| 高温・高放射線環境下におけるシール性能の評価 (ベント) | 1・2号機SGTS配管撤去工事 | 2021年7月～10月 |

※その他、現場作業の内容に応じて、適宜データ収集や調査・分析を実施

事故の調査・分析の進め方



✓ 現状は「現場で取れる情報」ベースで事故調査が行われているが、今後は事故調査中長期計画を整備して、「事故調査で欲しい情報」ベースでの現場調査をシフトする

別紙. 事故調査に関連する可能性のある現場作業リスト(短期)